





A-1



A-4: ダナイト
(一部ハルツバージャイト質)



A-2

A-3



D: ハルツバージャイト



C: ハルツバージャイト



G: ハルツバージャイト
(ダナイト脈を多数含む)

A-1-4 : dunite cumulates with harzburgite
 B-1-2, G, J, L, R : dunite channels in harzburgite
 C, D, E, F, W : harzburgite
 H, I, K : lherzolite with pyroxene spinel symplectites
 P, S : gabbroic layers (Type GB I) in plagioclase lherzolite
 Q-1-2 : plagioclase lherzolite
 M, N : tonalite (migmatite)
 O, T : olivine gabbro
 U : hypsthene gneiss
 V : granulite

H: レルゾライト
(輝石-スピネルのシンプレクタイトを含む)



E: ハルツバージャイト



F: 風化面のままの
ハルツバージャイト

I: レルゾライト
(輝石-スピネルのシンプレクタイトを含む)



S: 斜長石レルゾライト
/はんれい岩層



J: ハルツバージャイト
(ダナイト脈を含む)

マグマの通った痕跡



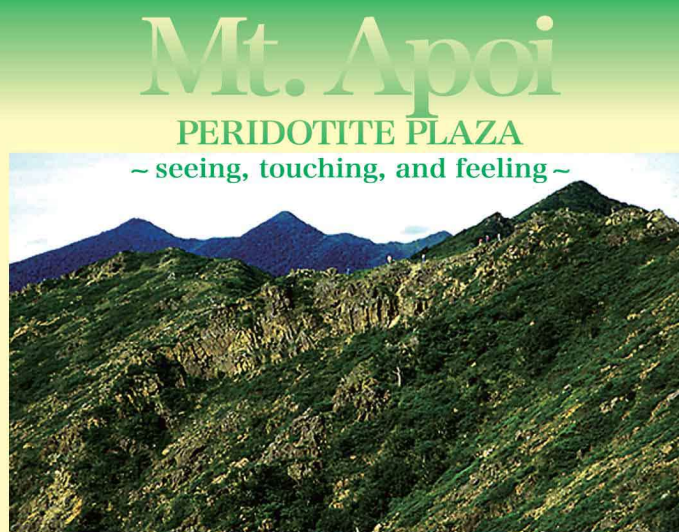
“マグマチャネル”
をはっきり見ることができます。



アポイの鼓動全景



アポイの鼓動全景



「ヒダカソウ」などの高山植物をはぐくむ
 「かんらん岩」の山。アポイの自然。
 広場のかんらん岩を、見て、触れて、感じてみてください。
 地球は生きているよ。

アポイのかんらん岩はとても新鮮で、かんらん石も、輝石も、スピネルも、高温高压の上部マントルにあったままの形で含まれています。学術的にきわめて貴重で、「Horoman peridotite (幌満かんらん岩)」の名前で世界的に有名です。

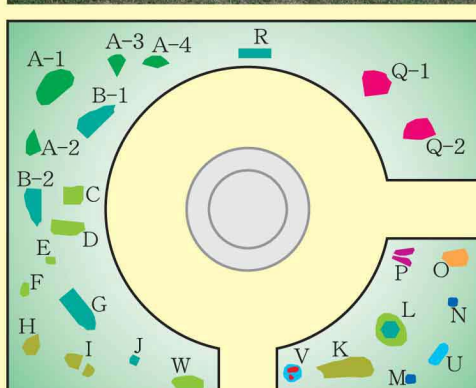
かんらん岩は玄武岩質マグマの起源物質です。日高山脈ができたときに、高温だった上部マントルから押し上げられて、地表に露出しました。

おおよそ10 km 深部の上部マントルにありました。



R: ハルツバージャイト
(ダナイト脈を含む)

W: ハルツバージャイト



岩石標本配置図



Q-1・2: 斜長石レルゾライト



O: かんらん石はんれい岩
(幌満川上流)



T: かんらん石はんれい岩
(幌満川上流)



カンランくん



アペイちゃん

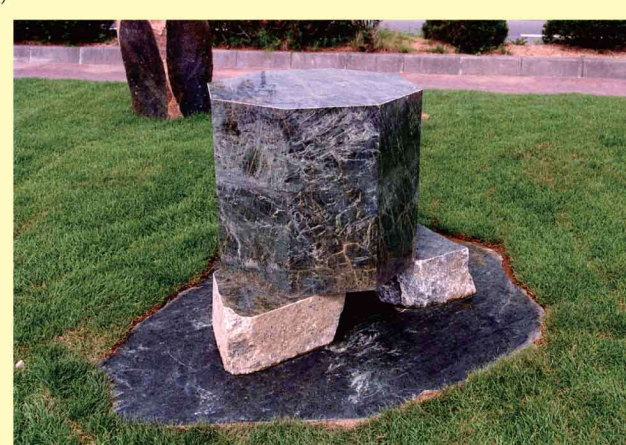
かんらん岩の中を見ることは地球のなかを覗くのと一緒のこと。
 地球内部のいろいろな様子が見られるよ。

この大きな標本に触れたり座ってみてください。
 石の温度や堅さがよくわかるよ。

かんらん岩を体感してみよう。
 私たちはかんらん岩の上に
 生きている。

石は私たちにいろいろなメッセージを送っています。
 ほら、すこしづつアポイの鼓動が
 聞こえてきませんか・・・

P: かんらん岩中の
はんれい岩層 (GBI)



L: ハルツバージャイト
(八角柱の上面で ダナイト脈の内部が観察できる)

N: トーナル岩
(ミグマタイト)



K: レルゾライト
(シンプレクタイトを含む)



V: グラニュライト
(メナシムベツ川上流)

U: 縞状紫輝石片麻岩



M: トーナル岩
(ミグマタイト)



アポイは世界的な学術標本

毎年、国内はもとより海外からも、多くの研究者が訪れます。アポイのかんらん岩は、とても新鮮です。かんらん岩に含まれる鉱物は、かんらん石も、輝石も、スピネルも、高温高压の上部マントルにあったままの形で含まれています。マグマの生成や上昇移動を研究するために、学術的にきわめて貴重な岩石試料です。

かんらん岩の研究者たちが現在追及している研究テーマはさまざまです。「かんらん岩が地下深部からどのように持ち上げられたのか?」「マグマができるとき、かんらん岩はどのように溶けるのか?」「できたマグマはかんらん岩の中をどのように移動上昇するのか?」「地下深部にあったかんらん岩は、そもそも「どこで?」「どのように?」造られた「どのような?」かんらん岩だったのでしょうか? かんらん岩の研究テーマは、上部マントル物質の流動や進化史など、かぎりがありません。希求のテーマは、やはり「地球深部の岩石は、地球創生の時代に、どのようにしてできたのか?」ではないでしょうか。

Mt. Apei

